



おけのこ

振り返る2024年

1月

▷「広域交通ネットワーク整備が地域にもたらすもの」(日本文理大学副学長:吉村充功氏)、大分県警察年頭視閲式、支え合いのまちづくりシンポジウム(清川町)

▶ホーバーターミナルおおいた現地見学会

15年ぶりの再就航となるホーバークラフト。ホーバー旅客輸送は世界で二つ、アジアで唯一。以前のタイプより窓も広く座席(80席)もゆったりで座り心地も良くなりました。



2月

▷地方自治講演会「福澤諭吉の地方『分権論』」(慶應大学名誉教授:小室正紀氏)、空港活性化と空港コンセッションに関する説明会、南大分まちづくり報告会

▶日韓友好のつどい

韓国映画「シークレット・ミッション」のチャン・チョルス監督、韓流スターも登場。圧巻は韓国伝統のテコンドーの演舞。(もの凄いジャンプ力でした。)



3月

▷連合大分2024春季生活闘争勝利総決起集会、東九州自動車道「大分宮河内IC～白杵IC 4車線化事業着工式典」、第1回定例県議会

▶自治体議員連合2024春闘街頭宣伝行動

全国的に賃上げムードは高まっていますが、物価上昇分を賃上げ率が追い越せていません。「政治とカネ」の問題は断じて許されないと訴えました。



4月

▷田中優子氏(法政大学名誉教授・前総長)講演会「江戸時代から考える戦争とジェンダー」、(独法)国際協力機構(JICA)訪問調査(東京都千代田区)

▶駐日ネパール大使館訪問調査(東京都目黒区)

急増する県内在留のネパール人は約千人。県民クラブはネパールとの友好・交流を深めています。ドウルガ・バハドゥール・スベディ特命全権大使と意見交換。



5月

▷けんしん大学「エコアクション21認証登録制度とJクレジット」(三浦逸朗氏、桑野恭子氏:ミウラクワノパート、ナーシップ)、大分政経懇話会「米大統領選挙と内外経済展望」(吉崎彦彦氏:双日総合研究所チーフエコノミスト)、国道210号改修促進協議会役員会

▶さかのせきビーチクリーンアップ作戦(こうざぎ海岸)

こうざぎ地区では毎月恒例の海岸清掃活動ですが、この日は佐賀関の9か所の海岸で一斉清掃を展開。地区内外から参加した多くのボランティアにより見事にクリーンアップされました。



新しい年の幕が開けました。旧年中に賜りました皆様からの心温まる御支援に心から感謝と御礼を申し上げます。西暦が二〇〇〇年を刻んだ当時の大分県の人口は約一七万人、それから四半世紀が経つ今年は一〇七万人になろうとしています。近年、人口減少が加速度を増す現状にあり、百万人大分県の維持をめざし、県では本年三月に新たな「まち・ひと・しごと創生大分県総合戦略」を策定しようとしています。

大きな変革期 力強く前進する年に



この十年間の地方創生の取組を総括し、新たな視点から大分県が力強く前進できる総合戦略となるよう議会の場で発言していきたいと思っております。今年の干支は「乙巳(きのとみ)です。「乙」は十干の二番目で、「草木が伸びる様子」、「巳」は「脱皮を繰り返すへビは不老不死のシンボル」を表すことから、「乙巳」の年は「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」年になると考えられています。米国は干支とは縁の薄い国ですが、トランプ氏が大統領として再生し国際情勢が変化を繰り返す年になると推測されます。また、国内においても昨年の解散総選挙で政治勢力の構図が大きく様変わりするなど時代の変革期を迎える今、大分が発展し県民の幸福度が大きく向上するよう本年も全力で頑張つて参ります。結びに、新年が皆様にとつて素晴らしい年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

二〇二五年 元旦



マイナ免許証が運用開始

■ 3月24日からマイナンバーカードと運転免許証が一体化へ

昨年末からこれまでの健康保険証が発行されなくなり、マイナンバーカードを健康保険証として使用するようになりました*が、本年3月24日からは運転免許証をマイナンバーカードと一体化して使用できることとなります。

*保険証の更新時にマイナカードを持ってない人は別途交付される「資格確認書」を医療機関の窓口にて提示

■ 免許証は3タイプから選べます

免許証の持ち方は次の3パターンです。①免許証(従来型)のみ、②マイナ免許証のみ、③免許証とマイナ免許証の両方。

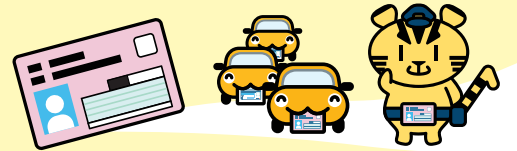
*運転時には免許証又はマイナ免許証のいずれかを携帯しなければなりません。

■ マイナ免許証の手続きは

免許更新時に限らず希望すれば運転免許センター等で手続きができます。(免許情報がマイナカードに記録される)

■ 免許情報の確認方法は

マイナカードには免許情報が記載されないため、「マイナ免許証読み取りアプリ」で読み取って確認できるようになります。(レンタカーの手続きなど、免許証の提示が必要な場合に使用)



マイナ免許証のメリット

- 住所変更等が簡単に！
氏名や住所の変更等の手続きは市町村役場に届け出るだけで完了します。(免許センター等での手続きは不要)
- 更新時講習がオンラインで受講可能！
オンライン更新時講習を24時間、どこでも受講が可能となります。(マイナポータルと連携)
- 住所地以外での更新手続きが迅速化！
住所地以外の免許センターでの免許更新手続きが迅速化されます。(即日完了)
- 更新手数料が格段に安く！
マイナ免許証は免許証(従来型)と比べて更新手数料が安く設定されます。
例) 免許証等更新手数料
マイナ免許証のみ : 2,100円
免許証(従来型)のみ : 2,850円

6月

▷豊肥・地域高規格道路建設促進期成会総会(竹田市)、連合大分「拡大政策・制度委員会」、第2回定例県議会

▷第49回部落解放・人権西日本夏期講座(別府市)
あらゆる差別撤廃と人権確立に向けて今年は大分県で開催。西日本各地から会場溢れんばかりの人々が集まる。



7月

▷連合大分「平和行動 in 大分」、中九州・地域高規格道路促進期成会総会(竹田市)、社会を明るくする運動大分市推進大会、県民クラブ「地域課題研究 in 西部地域」(九重町、玖珠町、日田市)

▷第64回地方自治研究大分県集会(日田市)
令和2年7月豪雨で大変な被害を受けた天ヶ瀬温泉。かつての賑わいを取り戻そうと、移住した若者らが中心となって互いに励まし合いながらイベントの開催等に尽力。



8月

▷夏休み子ども議会見学、大分政経懇話会「南蛮貿易の玄関口、豊後府内」講師：東京大学史料編纂所教授 本郷和人氏、空港コンセッション導入に関する勉強会、大分県台湾プロモーション、夏休みは県議会へ行こう！夏休み子ども議会見学

▷県民クラブ「高校のあり方を考える研究会」視察調査(広島市、高知市)

少子化の進行で県内の多くの高校で入学定員割れが続く、存続が危ぶまれる状況。遠隔授業や全国募集等に取り組む先進事例を調査。



9月

▷第3回定例県議会、大分県民スポーツ大会総合開会式(中津市：ダイハツ九州アリーナ)、大友氏顕彰フォーラム in 大分、第3回定例県議会閉会

▷大分県戦没者追悼式(別府市：ピーコンプラザ)
先の大戦で日本全国の戦没者数は310万人(県内は44,458人)を超える。今なお世界ではウクライナや中東等で紛争が続くなか、恒久平和の実現に向け不断の努力を重ねることを心に深く刻む。



10月

▷OITA サイクルフェス、大分政経懇話会「物流の2024年問題とその対応に向けて」講師：日本ロジスティクスシステム協会 松井拓氏、石棺様まつり、ツール・ド・九州2024(日田市)

▷議会運営委員会県外所管事務調査(宮城県仙台市、福島県福島市)

東日本大震災で多大な被害を受けた両県の県議会を訪問。3月11日は議会開会中に大地震が発生。被災当時の議会運営の対応方法を調査。



11月

▷「おおいた教育の日」推進大会(由布市)、大分みなと祭り、大分大学ホームカミングデー、第43回全国豊かな海づくり大会(別府市)、LIFE WORLD PROJECT「橋本昌彦を囲む会」

▷文教警察常任委員会県外所管事務調査(岩手県盛岡市、北海道札幌市・夕張市)
定員割れが続く公立高校の全国募集に取り組む岩手県教育委員会と北海道立夕張高校からヒアリング。北海道胆振東部地震によるブラックアウト時の警察の対応を調査。



12月

▷第4回定例県議会、豊府校区防災士研修会

▷大分県飲酒運転根絶フェア
「飲酒・酒気帯び」運転は何であろうと厳禁です。飲み会の翌朝の運転前には念には念を入れてアルコールチェックの徹底を。



2024年第4回定例県議会 一般質問・答弁

詳細はHPから 大分県議会 検索



【質問項目】

- 一、産業・地域振興
①半導体関連産業の振興
②一村一品
二、DXの推進
宿泊税
青少年のSNSの利用
住宅耐震化の促進
米の生産拡大
消防・救急医療体制の充実強化
①消防本部の体制強化
②救急安心センター

一、半導体関連産業の振興

木田 半導体メーカーTSMCの熊本進出が起爆剤となり、九州の各自治体が半導体関連の投資を呼び込むと取組を強化しています。九州内の半導体関連企業の投資額をみると、本県は域内で最も低いようで、スピード感を持って取り組まなければ、他県に後れをとるのではと危惧しています。半導体関連産業の振興にどのように取り組んでいくのか知事の考えを伺います。

答弁 本年八月の台湾プロモーションの際には、台湾企業の誘致を目的に初めて企

業誘致セミナーを開催して産業集積が進む本県の魅力や産業用地、中九州横断道路の整備状況等についてPRを行った。早速、複数の台湾の半導体関連企業から進出に関する問合せを受けるなど手応えを感じている。関係市町村等とも連携し、県内への立地につなげていきたい。



二、DXの推進

木田 地域では、地域課題の解決に向けたDXを構想している企業もあれば、地元大学においても新たにDX人材育成基盤プログラムを学科に設けたところもあります。

本県でも、デジタルの力で県民と地域、行政、企業をつなぎ、暮らしの利便性を高め、域内経済の好循環と地域活性化を目指すDX推進体制の構築を急ぐべきであると考えます。

答弁 市町村とのデータ連携や産学官によるDX協力は、いくつか進んできてはいるが、更に広域的なDXの取組が必要。そのため、県と市町村とで構成するデータ利活用に関する協議会において先進事例の共有や意見交

換等を進めている。引き続き、九州各県や市町村、企業や大学など、あらゆる関係者と連携を図り、県内におけるDXを進めていく。

三、青少年のSNS

木田 近年、SNS(ネット交流サービス)の利用を巡る様々なトラブルや健康上の影響等が指摘され、海外ではアメリカやイギリスで未成年者のSNS利用を規制する法律が制定されています。SNSの利用上の危険性に関して、国はもとより自治体においても更なる対策に取り組まなければならないと思います。

答弁 SNS等のネット利用にあたっては利便性と危険性の両面を正しく理解し、安全安心に活用するためのネットリテラシーの向上を図ることが重要。青少年のネット利用の実態を把握し、年齢や環境に応じたルールづくりの定着に加え、青少年と保護者に対するSNSの適正利用への理解促進に取り組む。

木田の意見 研修等の対策ではもはや限界。子ども達の将来を守るため国による規制について知事会等から問題提起すべき。

竹の子記
昨年秋、我が家に赤ちゃんがやってきました。と申しましたが、私の子どもではなく、娘の里帰り出産で誕生した赤ちゃんです。この上ない感動の出来事でした。娘の夫も仕事先は県外ですが、テレワークのためほとんど大分の我が家にいます。よって我が家の家族構成は二人から一気に五人へと倍増以上になりました。Uターン施策は人口減少の大分県にとって大きな躍進につながると実感しています。人口減少に歯止めがかからない大分県ですが、人口規模が縮小することを悲観してばかりでは何も生み出されません。表面に記載している大分県の新しい地方創生の総合戦略を策定するにあたっては発想の転換が必要で、考えて見ると、大分県より面積の大きい高知県はすでに六〇万人中盤まで人口が減っていますが、「鰻のたたき」で賑わう「ひろめ市場」や「よさこい祭り」で街中が湧き上がる同様に力強い魅力を感じます。危機管理の要諦は、最悪の事態にも持続可能な地域コミュニティを構築できれば結果的に人を惹きつけることになるはず。次期総合戦略にはその考え方を書き込まなければなりません。

公式LINEはコチラ
木田昇の議会・政務活動を随時更新中。
ご意見・ご要望なども、お気軽にご連絡ください！
*QRコードからお友達登録をよろしくお願いします。
県民クラブHPはコチラ
https://kenmin-club.com/